

令和5年度ケアラー・ヤングケアラー実態調査結果【ヤングケアラー編】

1 調査目的

近年、介護や看病などが必要な家族等を無償でお世話する方（ケアラー）の身体的・精神的負担等が社会問題化しており、ケアラーのなかには、自身の日常生活などに支障をきたしているにも関わらず、誰にも相談できず、社会的に孤立してしまう方もいます。

特に、18歳未満の方（ヤング ケアラー）は、その負担が重くなると、学業や友人関係などに影響を及ぼし、自身の健全な成長を妨げる要因になると言われています。

こうした背景を踏まえ、ヤングケアラーの現状などを把握し、今後の支援策の検討を目的に実施しました。

2 調査期間

令和5年6月19日（月）から令和5年7月31日（月）まで

3 調査対象と回答率

区分	ヤングケアラー		ヤングケアラーに関わりのある機関等
調査対象	小中学生 （市内小学4年生 から中学3年生）	高校生 （市内県立高校 1年生から3年生）	医師会、公共機関、主任児童委員、 人権擁護委員協議会、幼稚園、認定こども園、 私立保育園、小学校、中学校、学童保育室、 公立保育所、地域型保育所、保育ステーション、 子育てサロン、NPO法人、私立中・高等学校、 県立特別支援学校、越谷市保健医療部、児童館
配布数	17,205	5,652	281
回答数	13,375	927	190
回答率	77.7%	16.4%	67.6%

【参考】 ヤングケアラーとは

本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話を日常的に行っていること。

責任や負担の重さにより、学業や友人関係に影響が出てしまうことがあります。（こども家庭庁資料抜粋）



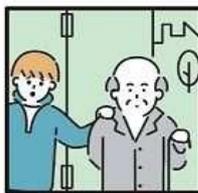
障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。

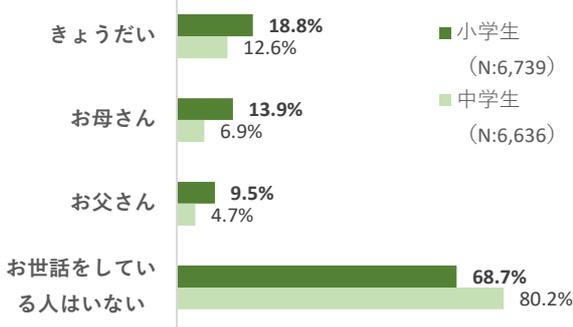


障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

小中学生対象

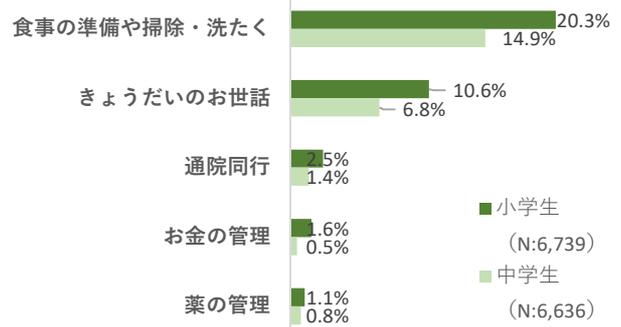
お世話の相手は兄弟が最も多い

●お世話をしている場合の続柄（複数回答）



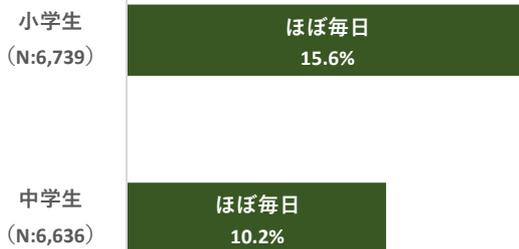
金銭・薬の管理を行う児童生徒がいます

●お世話の内容（複数回答）



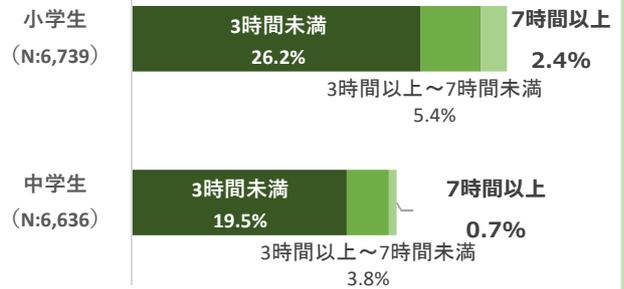
ほぼ毎日お世話している児童生徒がいます

●お世話の頻度



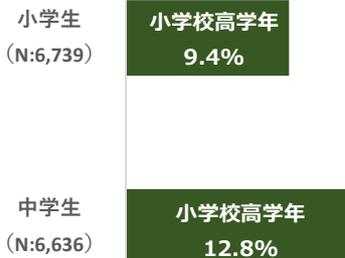
3時間以上お世話している児童生徒がいます

●お世話をしている時間（一日当たり）



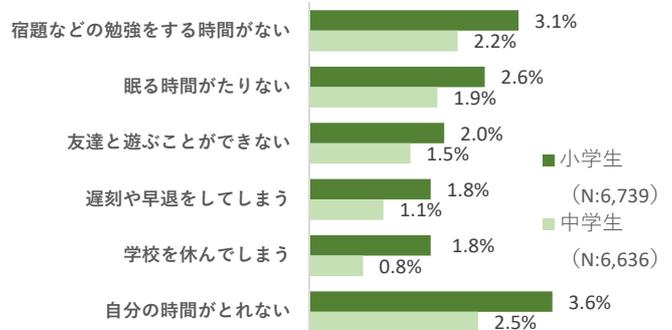
小学校高学年からお世話を始めています

●お世話を始めた時期



お世話により自身の生活に影響が出ています

●お世話をしたことによる経験（複数回答）



このうち

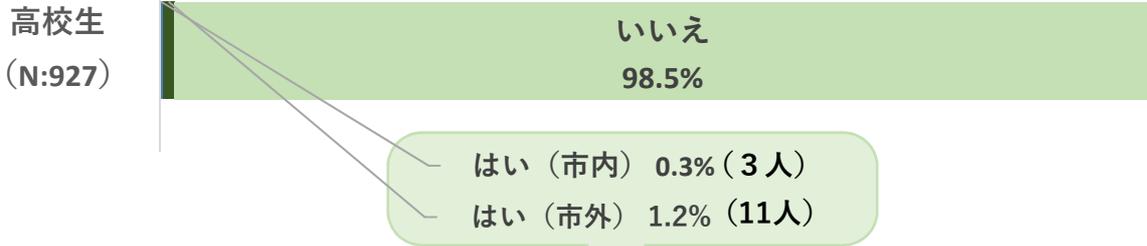
小学生で約18人に1人、中学生で約45人に1人がヤングケアラーにあてはまると回答しています

●ヤングケアラーにあてはまると思いますか



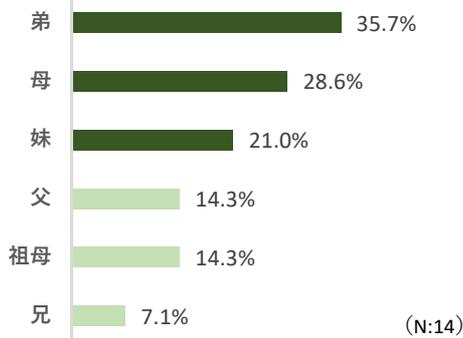
高校生では約70人に1人が、「ヤングケアラーである（であった）」と回答しています

●自身がケアラーである、または過去そうだったと思いますか？

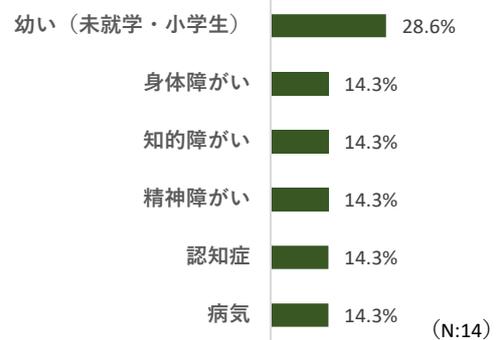


弟や妹、母のケアが多くなっています

●ケアを受けている方の続柄（複数回答）

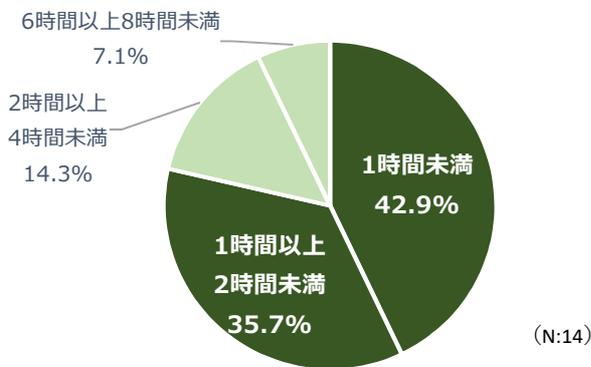


ケアを受けている方の状況はさまざまです



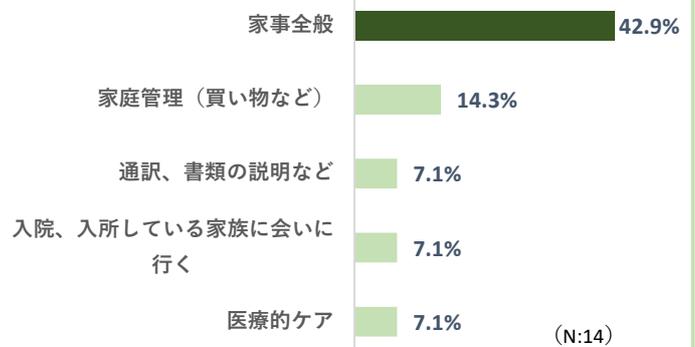
ケアの時間（平日）は2時間未満が多くなっています

●ケアの時間（平日）



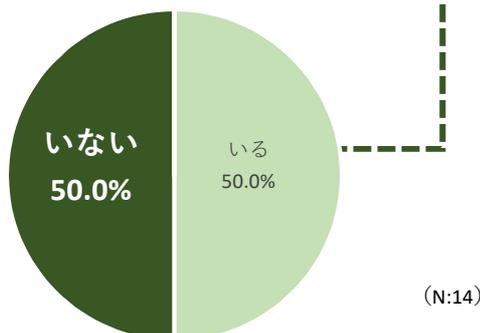
家事全般が多くなっています

●ケアの内容（複数回答）

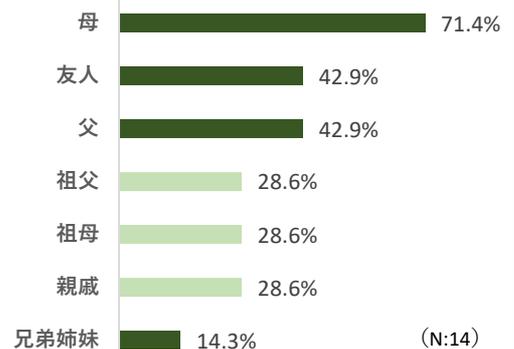


半数の人が相談相手がいません

●ケアに関する悩みなどの相談相手の有無

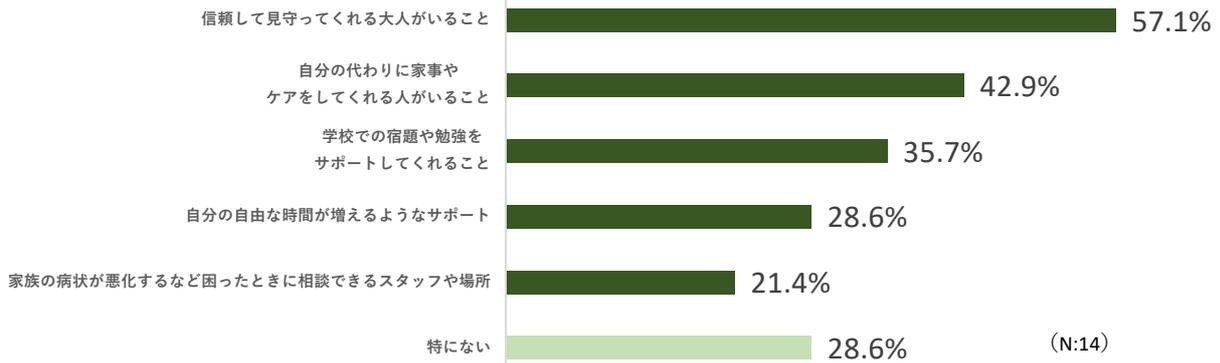


●ケアの相談相手（複数回答）



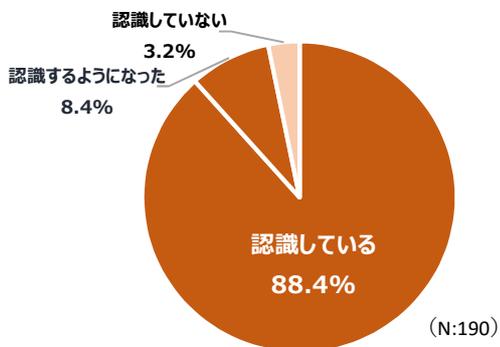
【自身がケアラーである、または過去そうだったと思う高校生（14人）を対象】

●こんなサポートがあったらいいと思うこと（複数回答）

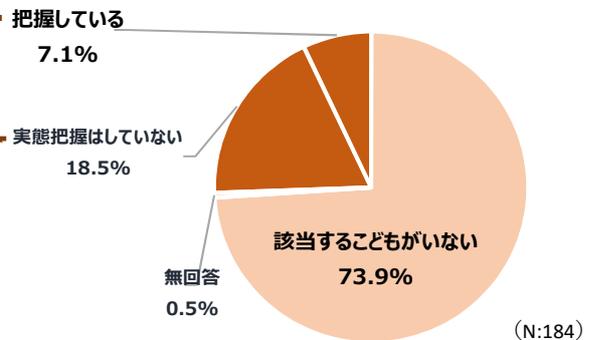


ヤングケアラーに関わりのある機関からの意見

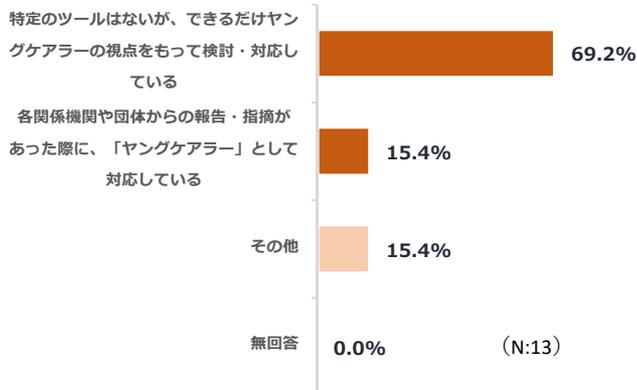
●ヤングケアラーの概念の認識



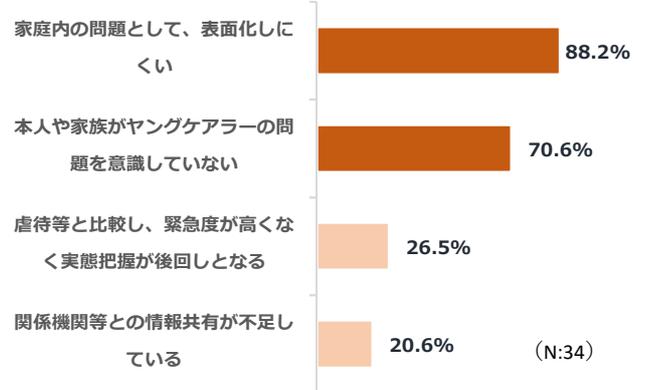
●ヤングケアラーの実態把握



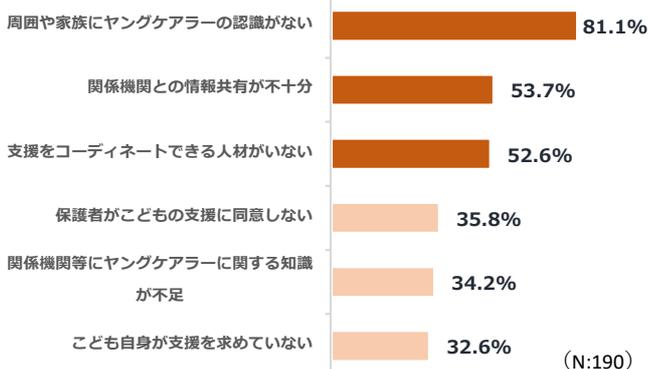
●実態把握の方法（複数回答）



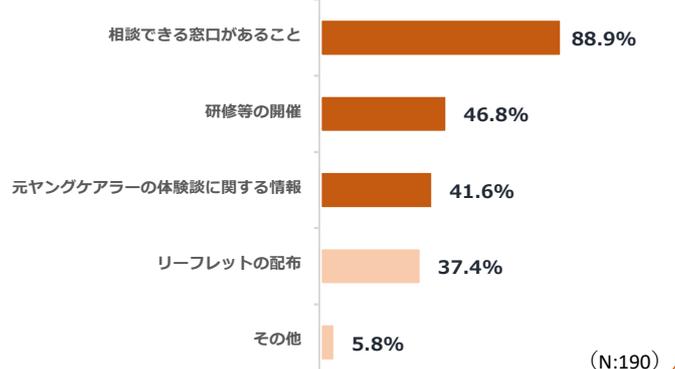
●実態把握ができていない理由（複数回答）



●ヤングケアラー支援の課題（複数回答）



●ヤングケアラーに求められる支援（複数回答）



※行政等に対する要望や意見等（自由記述）は別添「資料」P60～（高校生）及びP79～（ヤングケアラーに関係のある機関等）に全文掲載。